


 書評

日本精神障害者リハビリテーション学会 監修

英国保健省 精神保健に関するナショナル・サービス・フレームワーク

5年の経過

松原三郎

本書は英国保健省が1999年から10年計画で取り組んできた精神保健医療福祉改革の初期の5年間の報告書である。このような諸外国の精神保健施策に関する報告書の翻訳は他に例がなく、わが国の精神保健施策を見直す貴重な資料である。本書がわが国の精神保健関係者に与える影響は計り知れない。関係者必読の書と言っても過言ではない。

本書は2人の翻訳者(伊勢田堯氏, 田中英樹氏)による序文から始まっており, この報告書は, それまで経済的効率を重視しすぎたサッチャー政権の施策のために荒廃した医療と福祉を, 1997年に誕生したブレア政権が「公正」と「効率」の双方を重視した新しい施策へ転換したことから始まるなどの解説がされている。国民保健サービス(NHS)の改革は, 疾患別のナショナル・サービス・フレームワーク(NSF)を設定することで進められ, これを推進するためにイングランド国立精神保健研究所(NIMHE)が設立され, 科学的なモニタリングと分析に基づいて進められている。

報告書は15章からなっているが, 精神保健サービスを近代化するための7つの全国的な基準(精神的健康の増進, プライマリー精神保健ケア, サービスの利用, 専門家によるケア, 病院と危機対応住居, 家族(carers)への支援, 自殺を防止する), これらの全国基準を実現するために必要な5章(財政, 人的資源, 研究開発, 情報及び実施状況, 臨床指針), さらに, 本報告書の「解説」と「将来の方向性」が加えられている。「精神的健康(メンタルケア)」に関す

る章では, 16歳から74歳の成人のうち16%が神経性障害を持ち, また, 精神病の有病率が0.4%であったと報告されている。「プライマリー精神保健ケア」では, その質を向上させるために新たにプライマリー・ケア・ワーカーを地方実施チームに配置し, 24時間体制で実践している。「専門家によるケア」では, 積極的アウトリーチ・チームを全国で263チーム配置している。「病院」に関する部分では, 急性期入院や中等度保安施設に予算が投入されている。最も印象的であったのは, 「家族への支援」であるが, ワーカーを中心とする種々の家族支援サービスが計画的に実施され, サービス量は3年間で23%の伸びを示している。「自殺の防止」では, ハイリスク・グループへの積極的なアプローチ, 特にプライマリー・ケアにおける自殺防止を重点的に行い, その結果, 自殺はこの3年間に6%の減少を達成している。

このように英国における精神保健医療に関する施策は財政的に裏打ちをされ, 具体的で緻密である。必要な部分にはワーカーを中心とする人材を配置し, きわめて有効な結果をもたらしている。基本的な視点はわが国と大きな差はないにしろ, その進め方は, 科学的な分析を背景にしており, 真に「公正」「効率」が求められていることに驚かされる。

(松原病院)

●B5 99頁 2005 定価1,575円(本体1,500円+税) 日本精神障害者リハビリテーション学会